

2027 年卒

外国人留学生の就職活動に関する調査

2026 年 8 月発行

加速する日本企業のグローバル化への対応や訪日外国人対応のため、また、深刻な人材不足を補うため、外国人留学生の採用ニーズは高い状態が続いている。

「キャリアス就活」および「CFN (www.careerforum.net)」に会員登録している 2027 年卒業予定の外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況などを調査した。比較可能なものに関しては、国内学生（日本人学生）や海外の大学で学ぶ日本人留学生の調査データを引用しながら分析する。

【主な調査内容】

1. 現在の日本語力	・・・ P 2
2. 就職したい企業の種類	・・・ P 3
3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じる点	・・・ P 3
4. 日本企業に対するイメージ	・・・ P 4
5. 就職したい企業の規模と志望業界、志望職種	・・・ P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方	・・・ P 6
7. インターンシップ等（※）のプログラム参加状況	・・・ P 8
8. 就職活動開始時期	・・・ P 8
9. 7 月時点の就職活動量と内定状況（※）	・・・ P 9
10. 企業に評価してもらいたいこと	・・・ P 10
11. 就職活動の情報源	・・・ P 10
12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報	・・・ P 11
13. 留学の満足度	・・・ P 12
14. 外国人留学生就活川柳	・・・ P 12

※「インターンシップ」に限定せず、1 日以内のプログラムも含めて調査

※「内定」には、内々定を含む

《調査概要》

調査対象：2027 年 3 月卒業予定の外国人留学生（現在、大学 4 年生・大学院修士課程 2 年生）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2026 年 6 月 26 日～7 月 26 日
 サンプルング：キャリアス就活または CFN に会員登録している 2027 年卒業予定の外国人留学生
 有効回答数：206 人

回答者の属性

単位：人

文系	138	大学院	141	国公立	93
理系	68	学部	65	私立	113

●出身国・地域

東アジア	東南アジア	その他アジア	北米	ヨーロッパ	オセアニア	南米
176	19	2	4	2	1	2

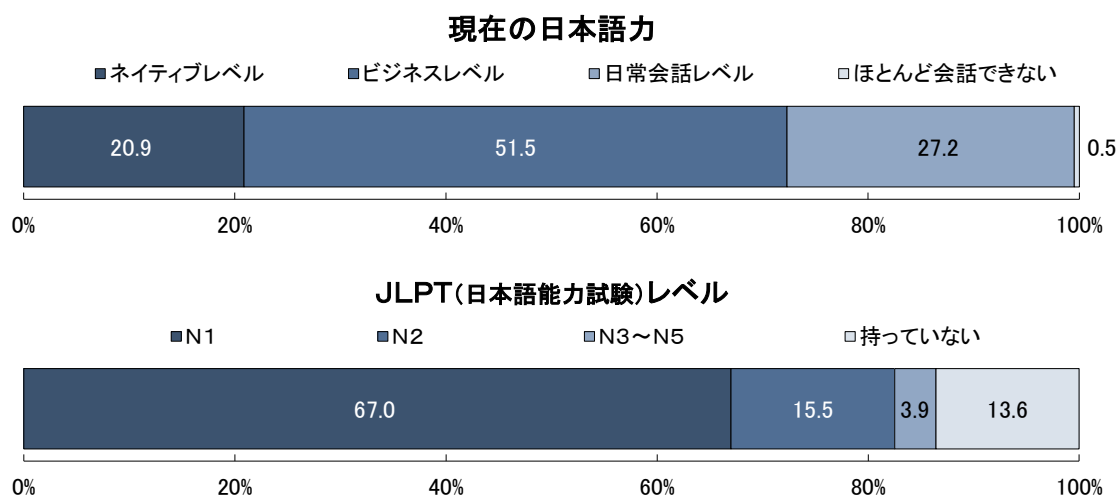
※国内学生の調査結果は「キャリアス就活 学生モニター調査」（2025 年 11 月、2026 年 1 月、2 月、3 月、7 月調査）より

※日本人留学生の調査結果は「海外留学生のキャリア意識と就職活動調査」（2026 年 4 月発行）より

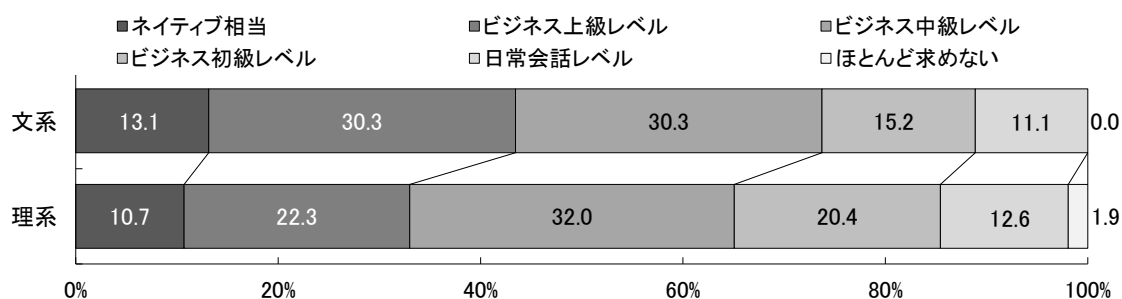
※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある

1. 現在の日本語力

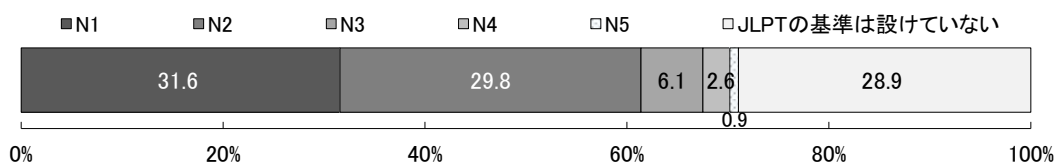
まず、現在の日本語力について尋ねた。「ネイティブレベル」(20.9%)、「ビジネスレベル」(51.5%)を合わせて、ビジネスレベル以上の日本語力を有する者は 7 割を超える（計 72.4%）。J L P T（日本語能力試験）のレベルについては、最高レベルである「N 1」の保有者が 6 割台後半(67.0%)。ビジネスレベル以上を求める企業が大半だが(下記参考データ)、そのレベルに達している者は多い。



【参考】 企業が外国人留学生に求める日本語コミュニケーションレベル(内定時)



外国人留学生採用時のJLPTの入社基準



※「外国人留学生／高度外国人材の採用に関する企業調査」（2025 年 12 月）

■JLPT（日本語能力試験）とは？

日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験

【N1】 幅広い場面で使われる日本語を理解することができる

【N2】 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる

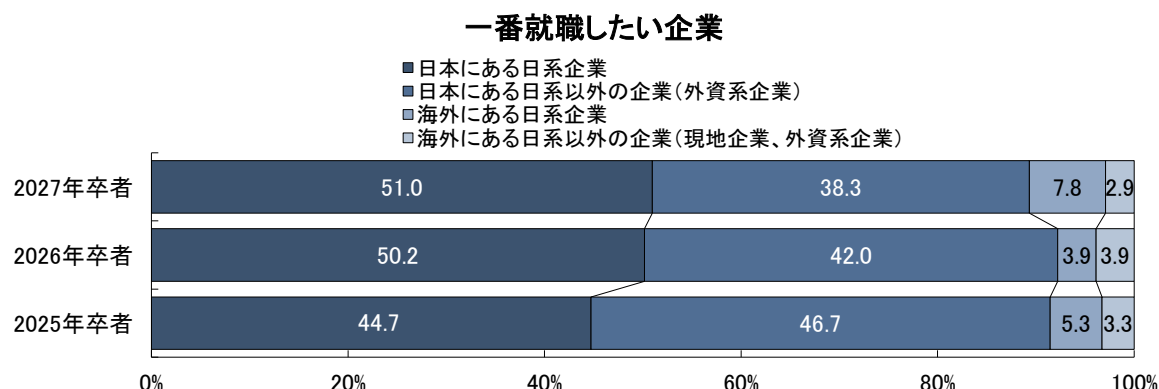
【N3】 日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる

【N4】 基本的な日本語を理解することができる

【N5】 基本的な日本語をある程度理解することができる

2. 就職したい企業の種類

卒業後に就職したい企業を 4 つの選択肢で尋ねたところ、最も多いのは「日本にある日系企業」で半数が選んだ（51.0%）。次いで「日本にある日系以外の企業（外資系企業）」（38.3%）が続く。日本での就職を望む外国人留学生は合わせて 9 割近くに上る（計 89.3%）。

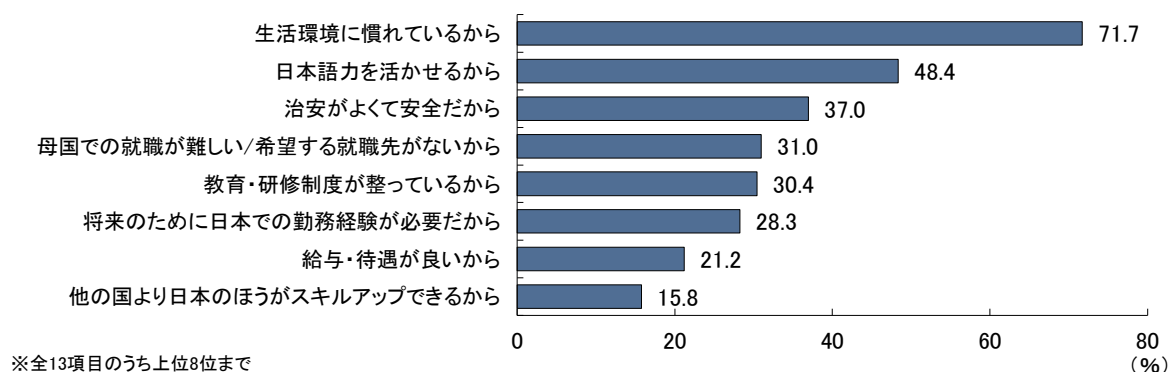


3. 日本での就職を希望する理由と不安に感じること

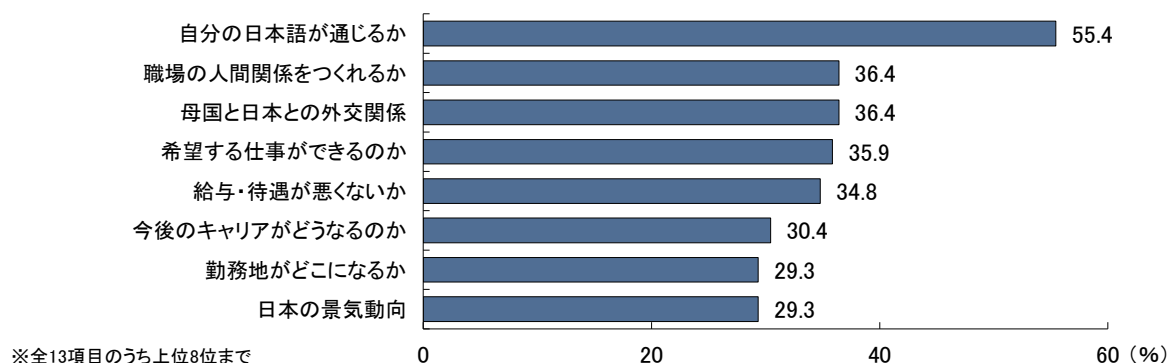
日本での就職を希望する理由として最も多いのは「生活環境に慣れているから」で、約 7 割（71.7%）。2 番目は「日本語力を活かせるから」（48.4%）。一方、不安に感じることで最も多いのは「自分の日本語が通じるか」で、半数以上が選択（55.4%）。留学で培った日本語力を活かしたい反面、ビジネスの場で通用するか自信を持ってない者も少なくないようだ。

なお、日本で働きたい年数を尋ねると、「できるだけ長く」という回答が半数を占めており（50.0%）、短期間での帰国を考えている者は比較的少数だった。（グラフは次ページ）

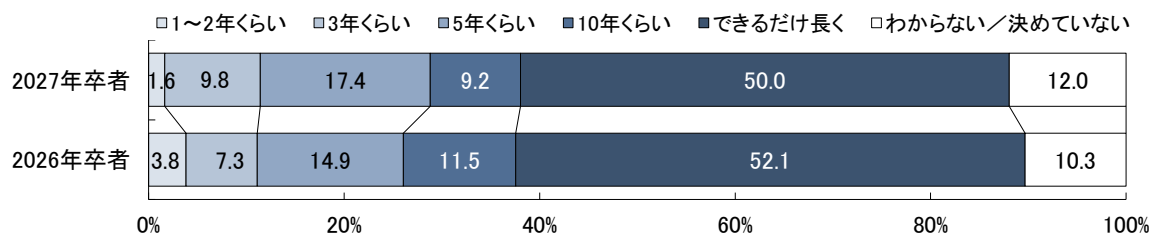
日本での就職を希望する理由



日本で就職する際に不安に感じること



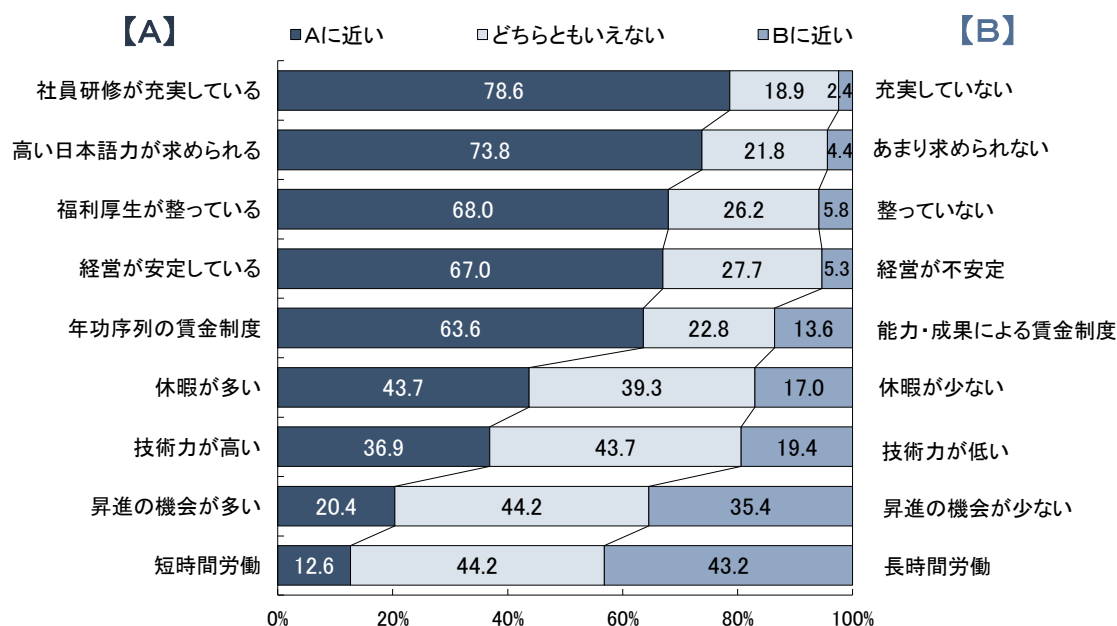
日本で働きたい年数



4. 日本企業に対するイメージ

日本企業に対して抱いているイメージを尋ねると、「社員研修が充実している」（78.6%）、「福利厚生が整っている」（68.0%）などが多くのポイントを集め、安心して働ける環境があると捉えていることがうかがえる。反面、「長時間労働」（43.2%）、「昇進の機会が少ない」（35.4%）などのマイナスイメージも見られる。また、「高い日本語力が求められる」を 7 割超が選んでおり（73.8%）、日本企業への就職の障壁と感じる留学生もいるだろう。

日本企業に対して抱いているイメージ



○日本企業は品質を重視し、責任感を持って仕事に取り組むイメージがあります。またチームワークを大切にし、人財育成にも力を入れている印象です。 <中国（本土）出身>

○研修が充実していて、学科問わず、どんな仕事にも挑戦できる。 <台湾出身>

○経営が安定していて研修制度も整っている印象がある一方、長時間労働のイメージも強いです。 <ブラジル出身>

○礼儀やマナーを重視するため社会人として成長できる。上下関係が厳しいイメージがある。 <ベトナム出身>

○年功序列やマニュアル重視の雰囲気。ただその分、雇用が安定しているイメージがある。 <韓国出身>

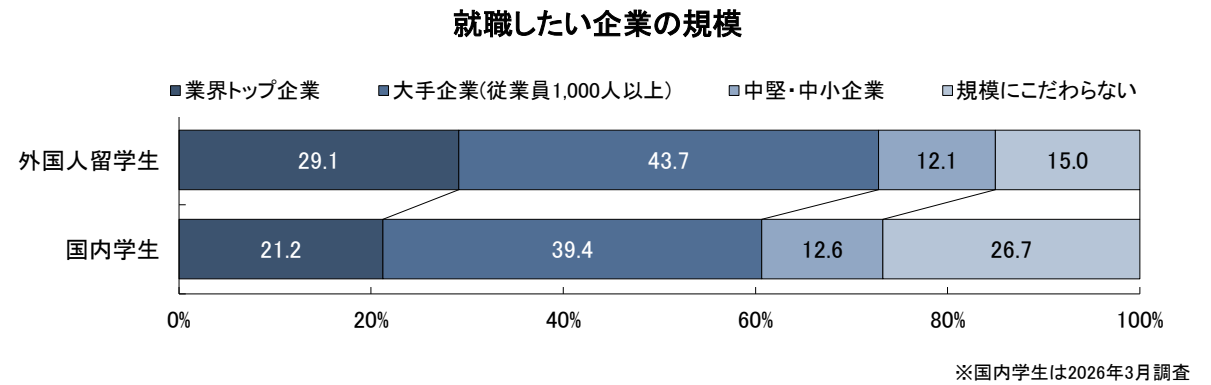
○転職は難しいイメージがあります。 <インドネシア出身>

○他の国や外資系企業より賃金水準が低いイメージがある。 <韓国出身>

○日本企業には、仕事が丁寧で責任感が強いイメージがあります。品質やお客様への対応を大切にしている点は良いと思います。 <中国（本土）出身>

5. 就職したい企業の規模と志望業界、志望職種

日本企業に限らず、就職したい企業の規模を尋ねた。「業界トップ企業」(29.1%)と「大手企業」(43.7%)を合計すると7割を超える(計72.8%)。国内学生(日本人学生)の計60.6%と比べて10ポイント以上高く、外国人留学生の大手志向の強さが表れている。日本にある企業になじみが薄い分、まずは知名度の高い業界トップ企業群に目を向ける留学生も少なくないとみられる。



続いて、志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらい、文理別に集計した。文系の1位は「総合商社」(39.6%)。3位に「専門商社」(21.6%)が入り、商社人気が高い。グローバルに活躍したい留学生が多いことがうかがえる。2位は「情報処理・ソフトウェア」(22.4%)、4位は「情報・インターネットサービス」(18.7%)で、IT業界を志望する学生も多い。

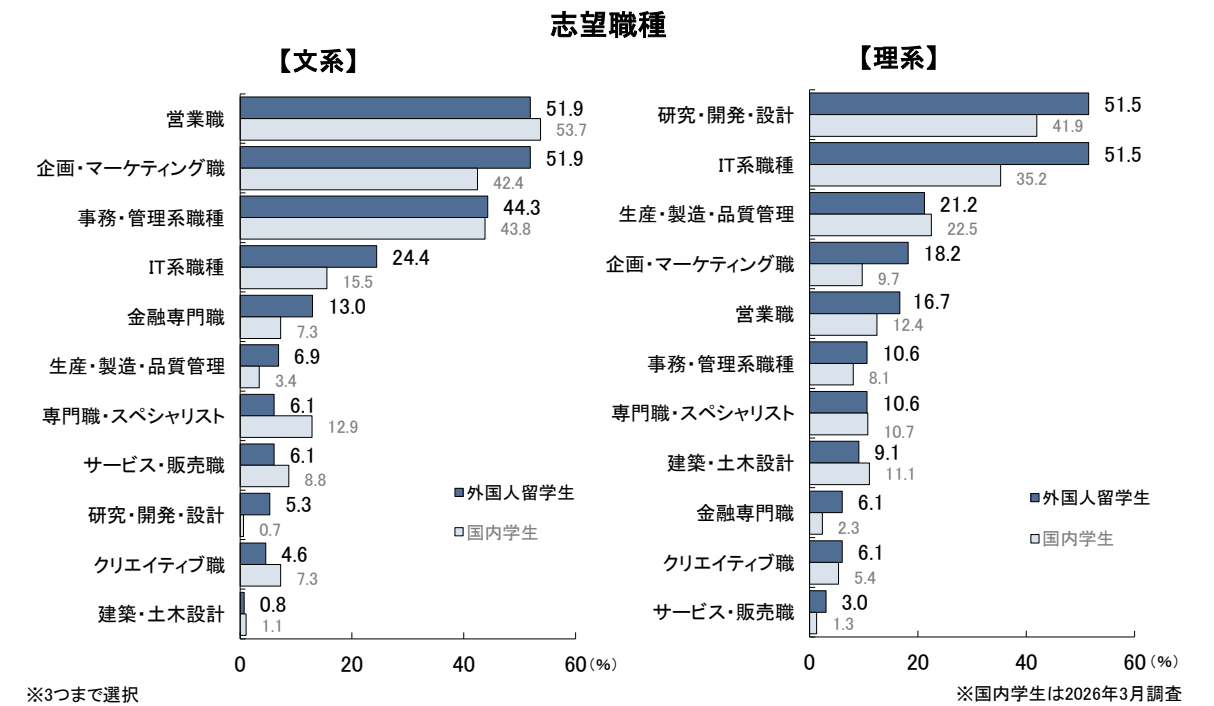
理系の1位は「情報処理・ソフトウェア」で4割が選んだ(40.3%)。次いで「電子・電機」「医薬品・医療関連・化粧品」(ともに22.4%)、「精密機器・医療用機器」(19.4%)と続く。ITとメーカーが上位を占めるのは国内学生と変わらないが、留学生はITの集中度が高いのが特徴的。

就職活動当初の志望業界（上位10業界）

				(%)			
文 系				理 系			
外国人留学生		国内学生		外国人留学生		国内学生	
1	商社（総合）39.6	1	銀行21.9	1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト40.3	1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト26.4
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト22.4	2	官公庁・団体18.3	2	電子・電機22.4	2	情報・インターネットサービス24.0
3	商社（専門）21.6	3	情報・インターネットサービス15.9		医薬品・医療関連・化粧品	3	電子・電機17.0
4	情報・インターネットサービス18.7	4	マスコミ13.7	4	精密機器・医療用機器19.4	4	素材・化学16.4
5	調査・コンサルタント17.9	5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト12.5	5	情報・インターネットサービス16.4		医薬品・医療関連・化粧品15.5
6	自動車・輸送用機器17.2	6	水産・食品11.7		調査・コンサルタント	6	水産・食品12.8
7	電子・電機16.4	7	運輸・倉庫10.7	8	機械・プラントエンジニアリング	7	建設・住宅・不動産12.5
8	素材・化学14.2	8	調査・コンサルタント10.5		商社（総合）	8	自動車・輸送用機器9.4
9	銀行	9	建設・住宅・不動産10.3	8	素材・化学14.9	9	通信関連9.1
10	精密機器・医療用機器		エンターテインメント		農業・林業・鉱業	10	調査・コンサルタント8.8
	証券・投信・投資顧問11.9						

※40業界の中から5つまで選択
※国内学生は2026年3月調査

志望職種を文理別に国内学生と比較した。文系は、外国人留学生、国内学生ともに「営業職」が 1 位。外国人留学生は「企画・マーケティング職」も同率で 1 位。理系は、外国人留学生、国内学生ともに「研究・開発・設計」と「IT 系職種」に人気集中している。ただし「IT 系職種」で外国人留学生と国内学生のポイント差が大きい。



6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点と希望する働き方

就職先を選ぶ際に重視する点を尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。外国人留学生の 1 位は、「将来性がある」(37.9%)。国内学生、日本人留学生は 2 位で、留学経験によらず重視する学生が多いようだ。外国人留学生の 2 位は「職場の雰囲気が良い」(35.0%) で、国内学生 (8 位)、日本人留学生 (9 位) に比べ順位が高い。

国内学生と日本人留学生は「給与・待遇が良い」が 1 位。国内学生は、他に「休日・休暇が多い」「福利厚生が充実している」など条件面を重視する傾向が見られる。日本人留学生は「大企業である」「有名企業である」の順位が比較的高い。

就職先企業を選ぶ際に重視する点（上位 10 項目）

外国人留学生			国内学生			日本人留学生		
1	将来性がある	37.9	1	給与・待遇が良い	51.6	1	給与・待遇が良い	43.9
2	職場の雰囲気が良い	35.0	2	将来性がある	43.3	2	将来性がある	40.7
3	給与・待遇が良い	34.0	3	休日・休暇が多い	33.0	3	大企業である	37.4
4	大企業である	32.5	4	福利厚生が充実している	30.4	4	有名企業である	28.0
5	有名企業である	26.2	5	大企業である	29.5	5	社会貢献度が高い	25.8
6	休日・休暇が多い	20.9	6	業績・財務状況が良い	27.2	6	仕事内容が魅力的	20.7
7	企業理念に共感できる	18.0	7	希望の勤務地で働ける	24.9	7	福利厚生が充実している	20.5
8	業績・財務状況が良い	17.0	8	職場の雰囲気が良い	24.8	8	日本以外の国で働ける	18.1
	9		社会貢献度が高い	22.9	9	職場の雰囲気が良い	17.3	
10	業界内の順位が高い	15.5	10	有名企業である	21.7	10	業界内の順位が高い	17.2

※全30項目の中から5つまで選択

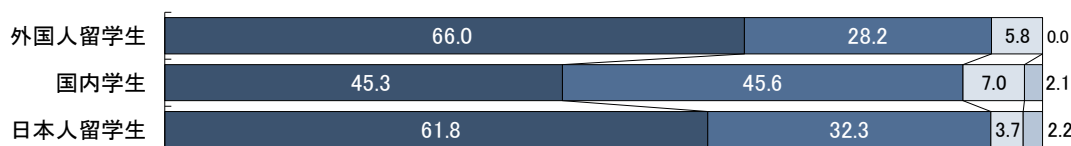
※国内学生は2026年1月調査

次に、就職先企業選びに下記の 3 つの項目がどの程度影響するかを尋ねた。「(1) 仕事を通して成長できること」は、外国人留学生の 6 割以上が「とても影響する」と回答（66.0%）。企業選びの重要な要素であることがわかる。「(2) 多様性のある職場環境であること」は、「とても影響する」が 42.2% に上り、国内学生（24.7%）より 20 ポイント近く高い。一方、「(3) 柔軟な働き方ができること」は、「とても影響する」の割合が、外国人留学生で約 3 割（30.6%）と、国内学生（47.1%）より大幅に低い。

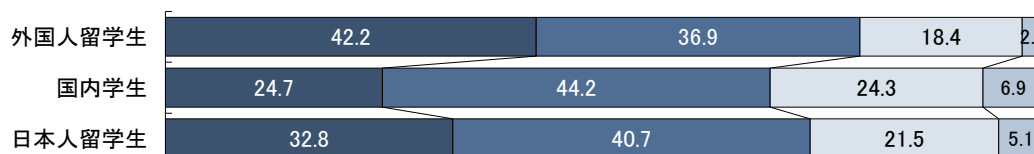
就職先企業選びへの影響度合い

■とても影響する ■ある程度影響する □あまり影響しない □まったく影響しない

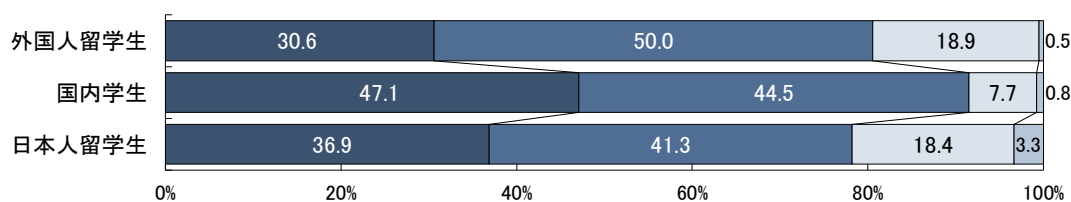
(1) 仕事を通して成長できること



(2) 多様性のある職場環境であること



(3) 柔軟な働き方ができること



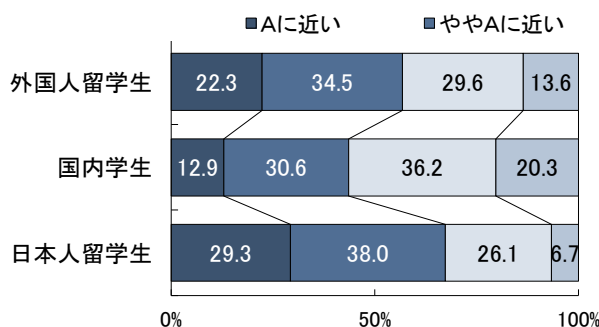
※国内学生は2026年1月調査

続いて、働き方の指標について対照的な項目を示し、希望に近い方を選んでもらった。

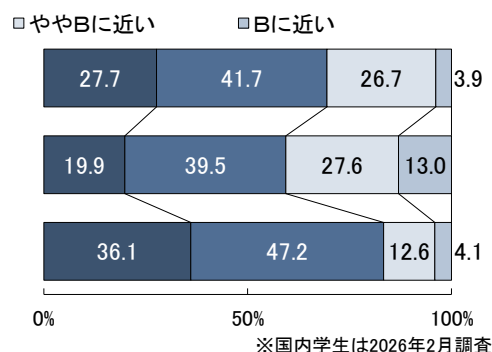
まず、「仕事が多少忙しくても早く出世したい」と考える外国人留学生は半数を超え（計 56.8%）、国内学生（計 43.5%）を 10 ポイント以上上回る。また、「人よりも能力やセンスを評価されたい」は 7 割近くを占め（計 69.4%）、国内学生（計 59.4%）を大きく上回っている。留学生の仕事への意欲の強さがうかがえる。

働き方についての考え

A. 仕事が多少忙しくても早く出世したい
B. 出世するより自分のペースで仕事がしたい



A. 人よりも能力やセンスを評価されたい
B. まわりから浮かないようにしたい



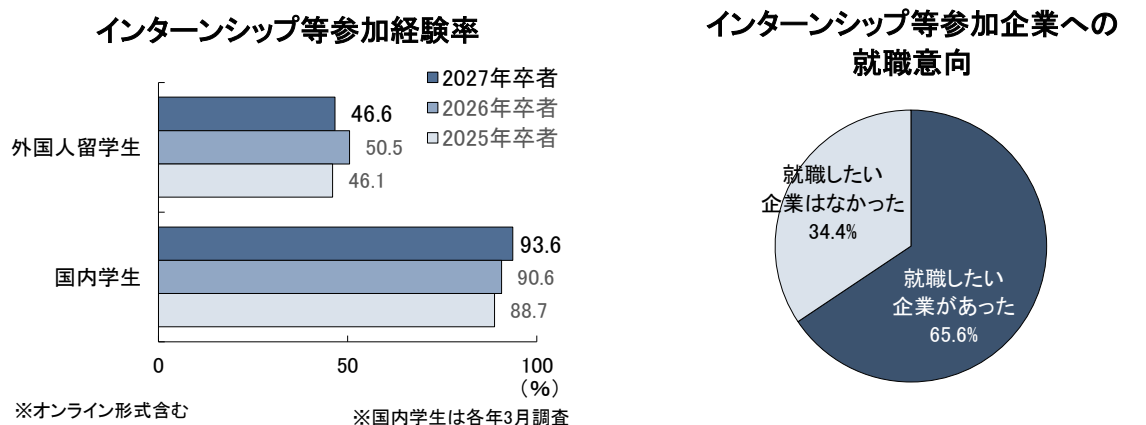
※国内学生は2026年2月調査

7. インターンシップ等のプログラム参加状況

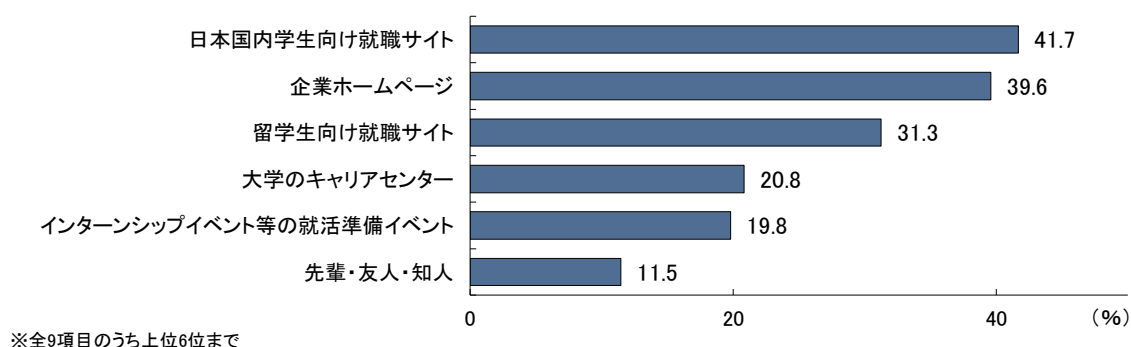
日本国内でのインターンシップやオープン・カンパニー等への参加経験を尋ねた。「参加した」と回答した外国人留学生は 4 割台（46.6%）にとどまり、国内学生の経験率（93.6%）とは大きな開きが見られる。

なお、参加した結果、就職したいと思う企業があったという外国人留学生は 6 割超（65.6%）。参加経験率は国内学生と比較すると低いものの、インターンシップ等への参加が、外国人留学生の就職先企業選びに与える影響は大きいことがわかる。

※1 日以内のプログラムも含む

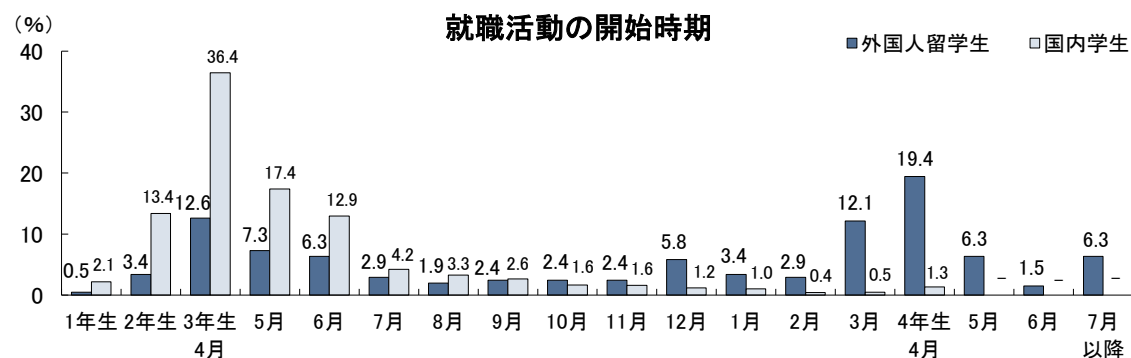


参加したプログラムを知ったきっかけ



8. 就職活動開始時期

外国人留学生が就職活動を開始した時期は「4 年生の 4 月」が最も多く（19.4%）、採用広報解禁（3 月）以降の合計が 45.6%。一方、国内学生は「3 年生の 4 月」（36.4%）が最も多く、解禁前の合計が 98.2%に上る。動き出しの時期の差が鮮明に表れている。



※「3年生」には「大学院1年生」を含む

※国内学生は2025年11月調査

9. 7 月時点の就職活動量と内定状況

調査時点の一人当たりのエントリー社数は平均 31.3 社で、前年同期調査（29.4 社）より 1.9 社多い。また、会社説明会の参加社数と、ES 提出、筆記・適性テスト、面接のいずれも前年同期を上回っている。

国内学生の平均社数と比較すると、すべての項目で外国人留学生の方が上回っており、就職活動の開始時期は遅いものの、精力的に活動している様子が見て取れる。

7 月時点の就職活動の社数

	全体	(前年)	文系	理系	(社) (国内学生)
エントリー社数	31.3	29.4	34.7	24.5	24.5
会社説明会の参加社数	24.8	22.3	27.5	19.0	17.7
エントリーシート提出社数	26.4	25.6	29.4	20.1	14.0
筆記・適性テストの社数	19.7	18.6	21.6	15.8	10.1
面接試験の社数（WEB面接含む）	11.1	10.6	12.2	8.7	8.7

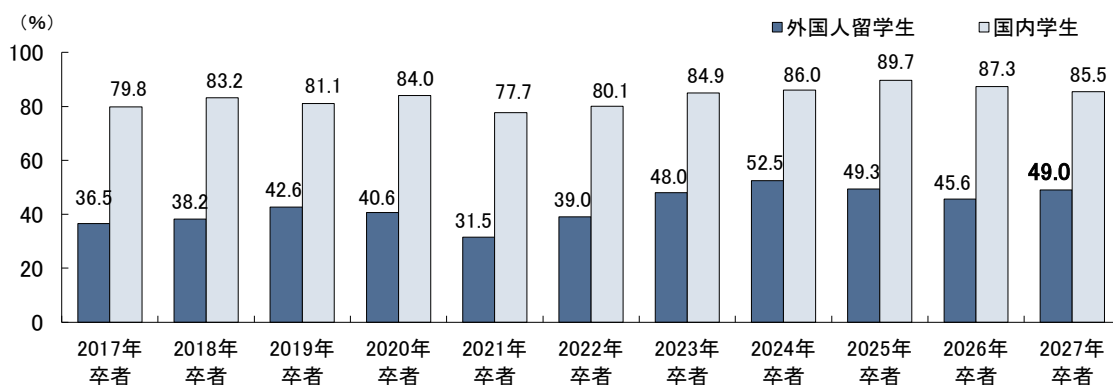
※国内学生は2026年7月調査

外国人留学生の 7 月時点の内定率は 49.0%。ここ 10 年を見ると、2024 年卒者をピークに 2 年連続で低下していたが、3 年ぶりに上昇した。ただし、国内学生の同時期の内定率が 8 割を超えているのと比べると（85.5%）、依然としてその差は大きい。

内定取得者も含め、就職活動を継続している外国人留学生は 6 割以上（計 66.5%）。国内学生（計 28.8%）の 2 倍以上に上る。就職活動の動き出し時期の違いなどにより、進捗にも顕著な差が生じている。

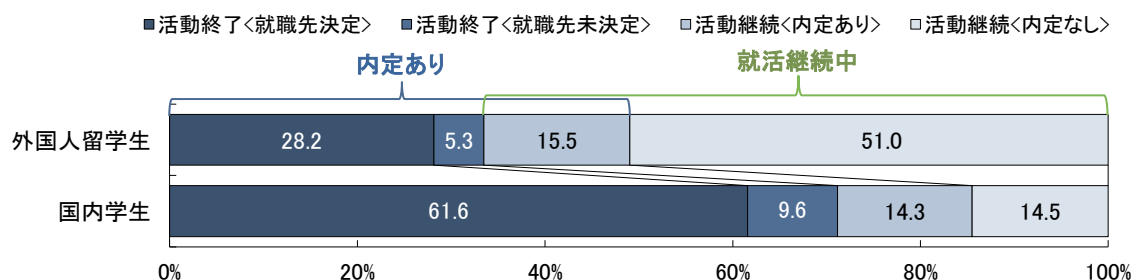
※「内定」には、内々定を含む

7 月時点の内定率（国内学生との比較）



※国内学生は各年7月調査

7 月時点の就職活動状況



※国内学生は2026年7月調査

10. 企業に評価してもらいたいこと

企業に評価してもらいたいことを尋ね、国内学生、日本人留学生と比較した。いずれも 1 位は「コミュニケーション能力」と共通している。外国人留学生は「基礎学力」が 2 位と高め。「語学力」「異文化対応力」も上位に入り、日本への留学経験を通じて向上させた能力を企業に評価してもらいたいと考える外国人留学生が多いことが読み取れる。

企業に評価してもらいたいこと（上位 10 項目）

(%)

外国人留学生			国内学生			日本人留学生		
1	コミュニケーション能力	40.3	1	コミュニケーション能力	51.7	1	コミュニケーション能力	47.7
2	基礎学力	38.3	2	協調性	48.1	2	協調性	36.4
3	語学力	34.5	3	信頼性	29.2	3	異文化対応力	32.4
4	熱意	34.5	4	熱意	26.6	4	語学力	30.2
5	異文化対応力	32.5	5	社交性	25.0	5	基礎学力	25.3
6	専門知識	31.1	6	明るさ	24.2	6	リーダーシップ	22.3
7	協調性	29.6	7	基礎学力	24.1	7	信頼性	21.3
8	頭の回転の速さ	19.9	8	一般常識	19.2	8	社交性	18.9
9	情報収集力	18.4	9	身だしなみ・マナー	17.7	9	熱意	18.0
10	明るさ	13.6	10	社会的関心	15.3	10	社会的関心	16.7
	社会的関心							

※全25項目の中から3つまで選択

※国内学生は2026年3月調査

○研究で培った課題解決力と、周囲と協力して最後までやり遂げる力。

<中国出身>

○トリリンガルであること。

<インドネシア出身>

○これまで異国で頑張ってきた熱意と忍耐力。

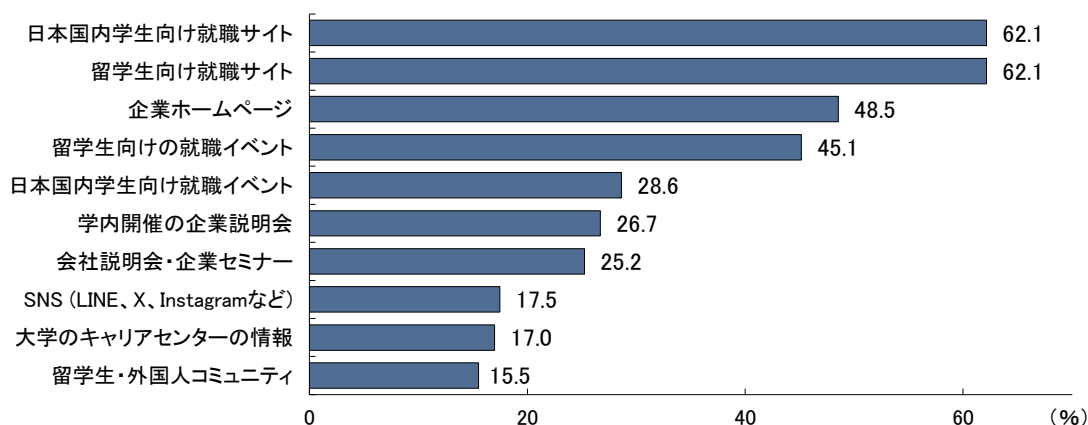
<中国出身>

11. 就職活動の情報源

外国人留学生が就職活動で活用する情報源について尋ねた。「日本国内学生向け就職サイト」と「留学生向け就職サイト」が 6 割以上に上り（いずれも 62.1%）、多くの外国人留学生が就職サイトを広く活用していることがわかる。

「企業ホームページ」（48.5%）、「留学生向け就職イベント」（45.1%）、「日本国内学生向け就職イベント」（28.6%）と続き、様々な手段を用いて情報収集を行っている様子がうかがえる。

就職活動の情報源



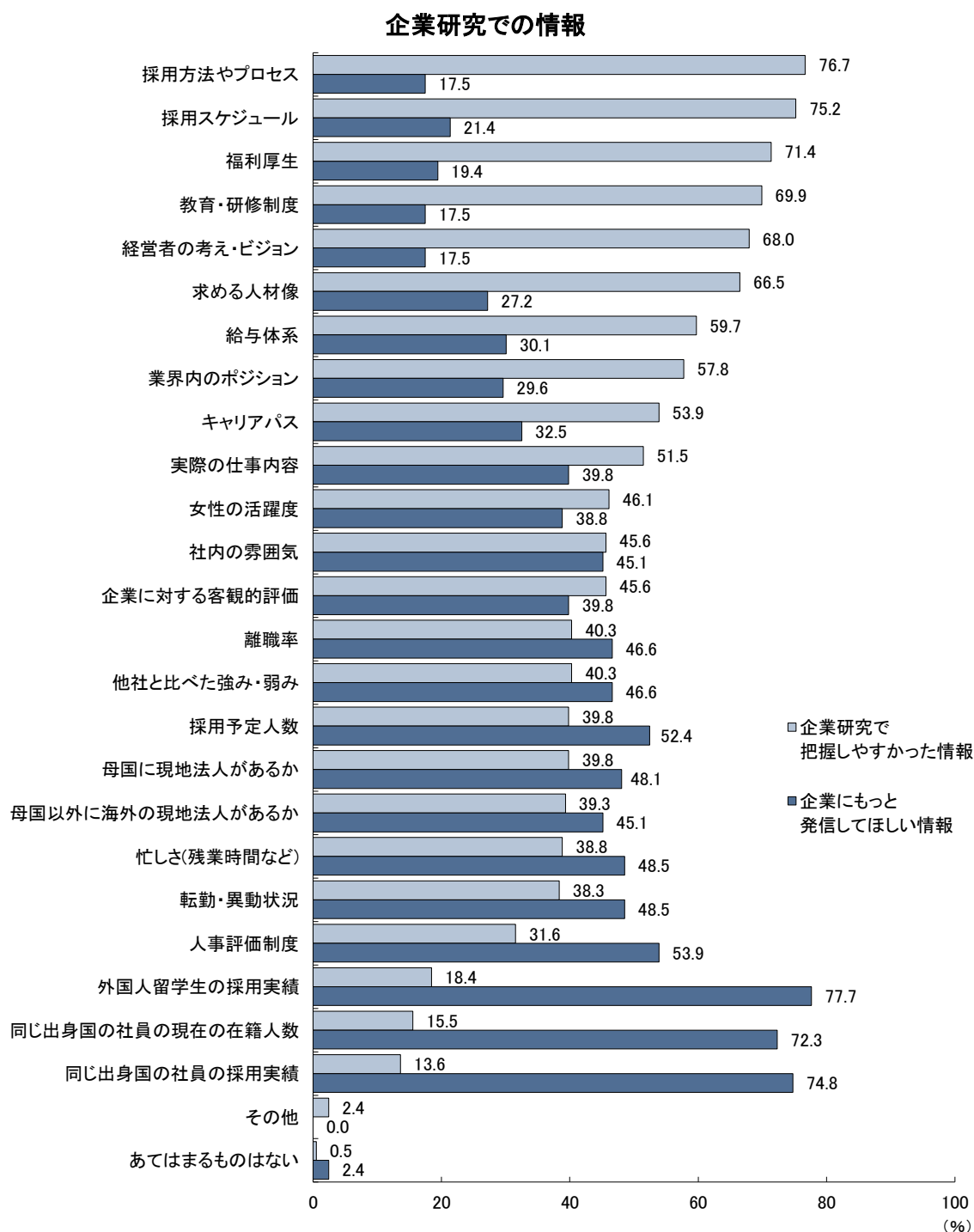
※全18項目のうち上位10位まで ※オンライン含む

12. 企業研究で把握しやすかった情報／もっと発信してほしい情報

「企業研究で把握しやすかった情報」と「企業にもっと発信してほしい情報」を比較した。

まず、把握しやすかった情報は、「採用方法やプロセス」（76.7%）が最も多く、僅差で「採用スケジュール」（75.2%）と基礎的な採用情報が続く。

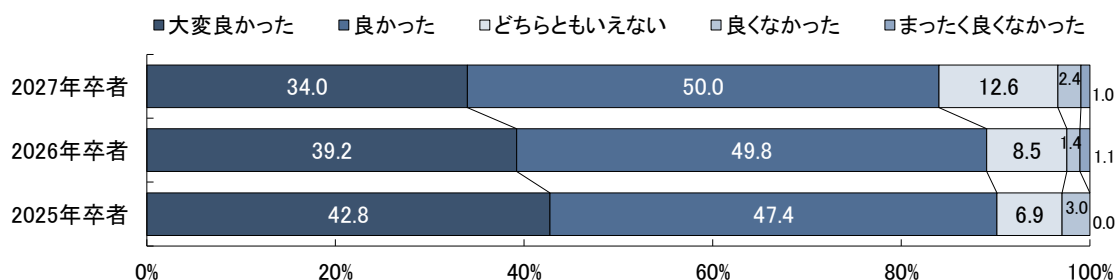
企業にもっと発信してほしい情報は、「外国人留学生の採用実績」（77.7%）、「同じ出身国の社員の採用実績」（74.8%）、「同じ出身国の社員の現在の在籍人数」（72.3%）がいずれも 7 割台と高い。把握しやすかった情報と大きな差が見られ、外国人採用情報の積極的な開示を企業に求めていることがわかる。



13. 留学の満足度

日本への留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」（34.0%）と「良かった」（50.0%）を合わせると 8 割を超え（計 84.0%）、満足度は依然高い。語学力の向上だけでなく、異文化での生活を経験したことで視野が広がったことなどが、その理由として多く挙げられた。

留学をした感想



- 研究環境が充実しており、将来につながる専門知識と人脈を得られたため良かったと思う。 <ブラジル出身>
- 専門知識だけでなく、日本語や異文化理解も深めることができた。 <中国出身>
- 違う文化の中で生活し、さまざまな人と交流できた。一人で外国に住んだことで、多くの経験を積み、自分自身も大きく成長できました。 <中国出身>
- 知らない世界を知れた。自分の進む業界における日本の立ち位置を知ることができた。 <アメリカ出身>
- いろいろなことを学びましたが、慣れるのが大変難しかったです。 <韓国出身>
- 希望の職につけたからいいが、国際的にみて給与が下がってるから少し不満。 <中国出身>

14. 外国人留学生就活川柳

日本での就職活動で感じたことを、川柳に詠んでもらった。全 91 作品が寄せられた中から、一例を紹介したい。日本特有の就活スタイルに戸惑いながらも奮闘する様子がうかがえる。

